



梅島小だより

「夢をかなえるために」

副校長 鯉沼 哲

9月13日(木)に、パラリンピアンの方の赤塚正美さんをお招きしての授業を行いました。

赤塚さんは、アテネパラリンピックで、正式種目に採用された女子柔道に出場した最初の日本代表選手です。生まれつき、視覚に障がいをもていましたが、女子柔道家でオリンピックでも活躍していた山口 香さんにあこがれ、20歳から柔道をはじめ人一倍努力し、練習を積み重ね、見事、アテネパラリンピック、北京パラリンピックに日本代表選手として出場することができました。

赤塚さんに会った第一印象は、小柄でおとなしい人だなと思いました。しかし、柔道着を身に着けた姿を拝見したとたん、凛々しく、女子柔道パラリンピアンの方のパイオニアであるんだなと実感しました。

体育館で子どもたちに向き合うと、ゆっくりと優しい口調で、「自分の障がいについて」「子ども達のことについて」「柔道を始めた時のこと」「パラリンピックに参加したこと」などを分かりやすく丁寧に語ってくださいました。子どもたちも集中して話を聞くことができました。その中で印象的だったのは、「自分は決して運動が得意な子どもではなかった。」「柔道を始めて、たくさんの方に出会った。」「柔道は、私みたいな小さな方でも大きな方を投げることができる。」など、「自分は特別な人間ではない。誰でも、あきらめずに最後までやり通せば夢はかなうことができる。」「多くの方と関わり、そして、自分も多くの方に助けられた。」など、赤塚さんは、子どもたちに特別なことを語るのではなく、最後まで自然体でお話をしてくださいました。

そして、梅島小学校の先生たちを相手に柔道の技を披露してくださいました。赤塚さんが得意な技である『大外刈り』『払い腰』『背負い投げ』の三つの技を自分より大きな先生たちに、子どもたちの目の前で一つ一つかけていきました。「相手の動きを利用して投げる。」お話してくれたように見事に先生方を投げ飛ばしていきました。子どもたちは、その迫力にびっくりし、感動していました。

今回の教室で、「あきらめないで最後までやり通すことで夢が実現できる。」「障がいをもった人たちに声をかけたり、優しく接したりすることの大切さ。」などたくさんの方のことを子どもたちは学びました。

子どもたちには、この授業で学んだことをこれからの生活で生かして欲しいと思いました。そして、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、様々なスポーツに関心をもって、様々な形で参加して欲しいと願っています。